

市町・避難所運営者のための ペット同行避難所運営マニュアル



福井県健康福祉部健康医療局医薬食品・衛生課

福井県動物愛護センター

目次

マニュアルの発行にあたって	1
なぜペットの同行避難が必要なのか	1
このマニュアルの方向性	2
災害に備えたペットの対策	4
平常時の準備	5
1 ペットの受け入れの検討	5
2 ペット飼育スペースの選定	6
3 飼育管理基本ルールの作成	11
4 飼い主・住民への周知啓発	13
5 ペット同行避難訓練	15
災害時の対応	16
ペットの入所受付	16
「スターターキット」という取組	18
参考様式	22
ペットの災害対策に関する問合せ先	26

本マニュアルは新潟県生活衛生課、埼玉県生活衛生課、NPO 法人アナイスの協力により作成しました。

マニュアルの発行にあたって

なぜ、ペットの同行避難が必要なのか

ペット同行避難とは、災害の発生時に飼い主が飼っているペットを連れて安全な場所へ避難することを言います。災害発生時には、市町において指定避難所が開設されますが、そこにはペットを連れて避難する人「ペット同行避難者」が必ず来るため、避難所のペットの受入れ体制の準備が重要となります。過去の災害では、避難所にペットを連れて聞けないという理由で飼い主が避難せず、被災によりペットと一緒に亡くなられた方もいました。

災害時には何が起こるかわからず、避難所運営の課題は山積みです。加えて避難所内における感染症対策も行わなければならず、ペットの対応まで考えられないというのが実情ではないでしょうか？



ペットの同行避難は、市にも問い合わせが多いですね。
ペットのことも考えないといけないのはわかりますが、
まだまだ人への対策で精一杯なところもありまして…
なかなか手が回らないのが現状です。



ペットも助けてあげたいですが、避難所には動物が苦手な方も
いらっしゃいますし…
発災直後は避難者の対応で手一杯、ペットまで目が届きません。
台風を考えると、外につないでおいてとは言いにくいし…

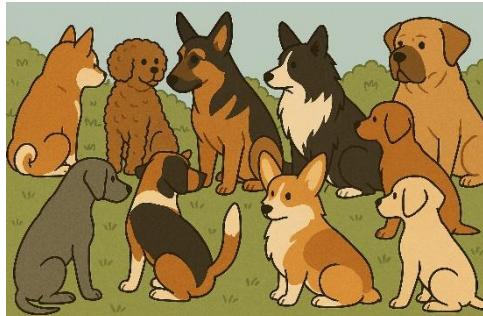
避難所運営に関わる皆様は、このような感想をお持ちになるかもしれません。しかし、過去の災害では、避難所のペット受入れ体制が整っていなかったことで、次のような被災事例がありました。



発災時にペット同行避難ができるかわからず、ひとまず
ペットを自宅において避難。
ペットを迎えに家に戻った飼い主が二次被害に遭遇した。



避難所ではペットを飼えないから、自家用車に避難。
長期化する車中生活によりエコノミークラス症候群を
発症するなどして亡くなるケースもあった。



東日本大震災では、ペットを連れて避難できないとの
情報から飼い主がやむを得ずペットを外に放した。
これにより群れた犬が放浪し、繁殖により猫が激増す
るなど、特に災害からの復旧時に支障をきたした。

近年ではペットも家族の一員となり、多くの飼い主は災害時にペットを連れて避難したいと考えています。しかし避難所でのペット受入れの不安から飼い主が避難をせず、その後の救助が難しくなった事例や、飼い主が放したペットが大量に繁殖して手に負えなくなったり、人けがをさせたりして、災害復旧の支障となる事例もありました。

このようなトラブルを防ぐため、災害時も飼い主が自分でペットを管理できるしくみが必要です。

このマニュアルの方向性

このマニュアルで対象としているのは、河川の増水等による予備的な避難ではなく、地震や大規模な水害などにより家屋が被災し、住むことができなくなった場合の、指定避難所における中長期的な避難生活です。

各自治体は地域防災計画等に基づき災害対策を進めています。しかし大規模災害では行政自体の機能が麻痺する可能性もあり、行政機関が取り組む**公助**だけではなく、住民自ら災害に備える**自助**、地域やグループで防災に取り組む**共助**を充実させていくことが重要との認識が高まってきました。

特にペットの防災対策では、避難所運営者がペットより人への対応を最優先に進めざるを得ない事情もあることから、飼い主が自ら避難所でのペット受け入れやルールづくりに協力する必要があります。

そこで、平時に飼い主がフード等の備蓄を進めておく「自助」と地域の飼い主同士が協力できるような「共助」、そして自治体が避難所の受入れ体制を整備していく「公助」がうまくかみ合うよう、事前に準備を進めておくことが重要と考えています。

ペット防災の自助・共助・公助(イメージ)



本書では、**公助**の部分として避難所のペット受入れ体制について示すとともに、**共助**の部分として飼い主同士が協力して避難所のペット受入れを進めていく「**スターターキット**」についてお示します。

スターターキットとは、避難所のペット受入れに必要な資材や説明書をまとめて避難所に保管しておく取組です。避難所に最初に避難した飼い主らがペットの受入れを自主的に始められるようにするもので、ペット同行避難訓練などで飼い主がキットの扱いに慣れておけば、避難所運営側はペットの受入に関する負担を最小限にすることができます。

それぞれの避難所におけるペット同行避難の受入体制づくりに、ぜひこのマニュアルを活用いただきたいと考えています。

県では、毎年市町と合同で実施している防災訓練においてペット同行避難に取り組んでおり、様々なご意見も聞きながら、本マニュアルも更新していくと考えています。

災害に備えたペットの対策

過去に発生した多くの災害では、避難所におけるペットの取扱いが十分に想定されていなかったことで、トラブルが発生する事態が散見されました。避難所は様々な方が共同生活を送る場であり、ともに災害を乗り越えるためには避難所運営側、そして飼い主も平時のうちに準備を進めておくことが必要です。

災害対策フローチャート



平常時の準備(避難所運営編)

1 ペット受け入れの検討

避難所の準備を進める中で、ペットへの対応はどうしても後回しになります。過去の災害では一旦避難した飼い主が自宅に置いたペットを迎えに戻ったことで災害に巻き込まれた事例もありました。全ての住民の安全を確保するためには、ペットを連れた飼い主が避難してくることを想定しておく必要があります。

ぜひ、避難所ごとにペットの受け入れ可否を検討し、「どこに飼育スペースを確保できるか」を検討してください。



Point!

様々な形態の避難所がある中で一律の対応は難しいかと思います。

その中でまず、自治体と避難所の運営者等がペットの同行避難について**共通認識**を持つことが準備の第一歩となります。

2 ペット飼育スペースの選定

次に、避難所のどの部分を動物の飼育場所として利用するか、あらかじめ選定しておきましょう。この際、可能な限り水害や津波(浸水)を想定して選定しておく必要があります。また福井県の場合、冬季は寒さと降雪の影響が大きく、建物の外にペット飼育スペースを設けることは現実的ではありません。

過去の災害で、避難所でのペット飼育に関する苦情が寄せられたのは、鳴き声とニオイです。一般の避難者のスペースと距離を取ったうえで、人と動物の動線(動き)を分けて接点を最小限にすることでトラブルの発生を予防できます。

Point!

ペット飼育スペース選定の仕方

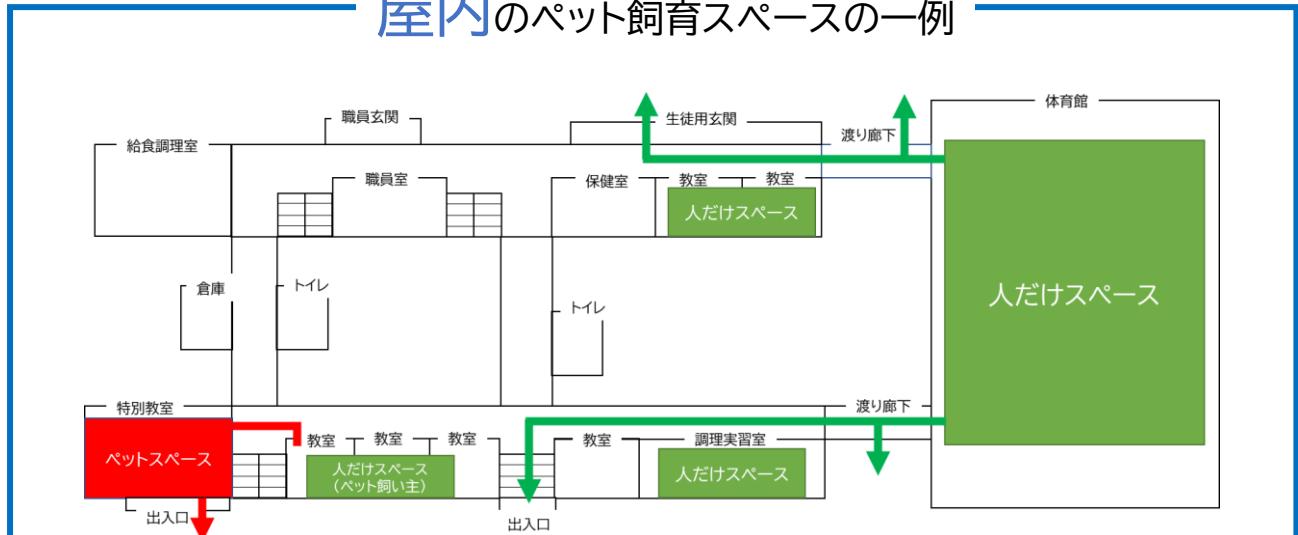
- ・ペットを飼育していない方との動線ができるかぎり交わらない
- ・鳴き声や臭い等の問題を考慮して、一般の避難者の居室から離れた場所に設置する
- ・飼い主の居室は、できるだけペットスペースの近くにする
- ・ペットへの刺激を減らすため、人や車などの通り道から見えない場所にする
- ・犬と猫は分けて飼育場所を確保する
- ・水道に近く、掃除がしやすい場所を選ぶ
- ・屋外にする場合は、風雨や日光、寒さをしのげる場所とする
- ・犬を係留して飼う場合は、丈夫な支柱がある場所を選ぶ



過去の災害で使用された飼育場所の例

- ・体育館の倉庫
- ・裏口の風除室
- ・プール用の更衣室
- ・渡り廊下
- ・階段の踊り場
- ・階段の下
- ・室内ゲートボール場
- ・弓道場
- ・職員玄関
- ・音楽室等防音設備のある部屋など

屋内のペット飼育スペースの一例



犬も猫もケージでの飼育を基本とし、動物種ごとに分けて飼育場所を確保します。ペットが鳴いたときの対策のため、飼い主の居室はできるだけペットスペースに近い場所に設置します。

ペットスペースに余裕がある場合は、飼い主が付き添いのようなかたちでペットスペースに寝泊まりする同居避難も検討しましょう。ペットも落ち着き、鳴き声などのトラブル防止につながります。

避難終了後にニオイや汚れが残らないよう、ペットスペースにはブルーシートを敷いて養生し、日常の清掃の際も市販の塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウムの入ったもの)を使って清拭すると消毒とともに消臭効果が得られます。

<塩素系漂白剤を用いた消毒剤の作り方>

【0.03% (300ppm) 消毒液】

塩素系漂白剤(6%原液)を2Lペットボトルにキャップ2杯入れ、水を加えて2Lにする。(200倍希釀)

ペットボトルのキャップ1杯は5mlです。

作り置きする場合は、アルミホイルで覆い遮光しましょう



誤飲防止のため **消毒液と明示** しましょう

屋外のペット飼育スペースの一例



学校には屋外にも物置や車庫、自転車置き場、校舎の軒下、ピロティなど人の居住には向かなくてペットには有効に使える場所があります。

運動会用の大型テントをペットの一時飼育場所とした事例や、自転車置き場をブルーシートで囲い、中～大型犬の係留飼育場所とした事例もあります。

施設の状況は様々ですので、ペットスペースの確保が難しい場合、屋外の施設も選択肢の一つにはなると思います。

一方で、津波や台風、豪雨災害の際は屋内に退避するしかなく、降雪期は屋外での飼育は難しく、屋外は天候の影響を大きく受けるため、季節を選んで限定的な使い方になると思います。

車庫・倉庫・部室など



車庫や倉庫は人が使うには難しいかもしれません、
ペットスペースとしては利用できます。
原則、ケージでの飼育管理となります。
(器具等が入っていますので事前に調整が必要です)

自動車（自転車）置場



屋根のある貴重な場所です。
ブルーシートで四方を囲うことで、雨をしのぐことができます。
中～大型犬の係留場所として利用できます。

Point!

津波・水害時はペットと高層階へ避難！

水害の場合は、水が引くまで安全が確保できません。

東日本大震災では、せっかく飼い主さんと一緒に避難所まで逃げてきたのに、動物だからという理由で建物の中に入れてもらえず、避難後に襲ってきた津波によって外にいた多くの動物たちが亡くなってしまった事例もありました。

緊急時は、中長期的な避難生活を想定した避難所運営のルールにこだわるのではなく、臨機応変な対応が必要です。



水害が落ち着くまでは、ペットも含め高層階へ避難ができるよう、あらかじめ避難所関係者に周知しましょう。

Point!

ペットが落ち着いて過ごすために

避難時は、人だけでなく動物たちもとても不安な気持ちになっています。そして避難所では、狭い場所で知らない動物同士と一緒に過ごすことになります。動物たちにの不安を取り除くためにどうしたらよいのでしょうか。

飼い主の不安はペットにも伝わりますので、飼い主さん自身が落ち着きましょう。そして、動物たちへの刺激を減らすため、できるだけ人通りの少ない静かな場所で、ダンボールやバスタオル、毛布などでケージに目隠しをします。

避難時の持ち出し品の中に、バスタオルも入れておきましょう。また、飼い主以外の方が、無断でペット飼育スペースに入ったりのぞき込んだりしないよう、注意書きも掲示しましょう。



東日本大震災時 新潟市内の避難所の様子(新潟県提供)

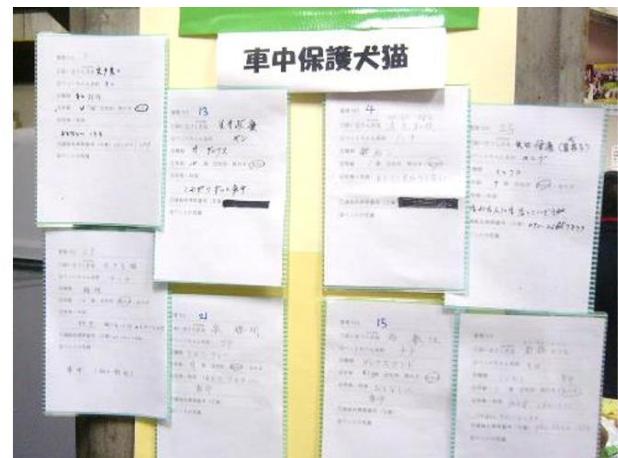
TOPIC!

テントの避難者への注意点

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、感染防止対策の一つとして、これまでのように「避難所」に多くの人が密集しないよう、「親戚・知人宅」「ホテル」「在宅避難」「車中泊」などさまざまな避難先に、分散して避難することも求められています。

特に、車やテントは、ある程度プライバシーが確保されますので、飼い主がペットとともに避難することが想定されます。しかし、車など狭いスペースで長時間過ごすことで、**エコノミークラス症候群**や、時期によっては**熱中症**を発症する恐れがあります。

避難所では、車中避難者も含めて把握とともに、ペット・飼い主ともに定期的な運動とこまめな水分補給、温度管理の必要性を周知する必要があります。自分で車から出られない幼い子供はもちろんですが、ペットについても長時間車の中に残すことがないよう周知しましょう。



車中泊の写真と避難所における把握用掲示板(新潟県提供)

Point!

エコノミークラス症候群を予防するために

- ① ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
- ② 十分にこまめに水分を取る
- ③ アルコールを控える、できれば、禁酒する
- ④ ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない
- ⑤ かかとの上げ下ろし運動をしたり、ふくらはぎを軽くもんだりする
- ⑥ 寝るときは足を上げる(高くする)



3 飼育管理基本ルールの作成

ペット同行避難が可能な避難所については、ペット飼育管理の**基本**ルールを決めておきましょう。ペットを連れて避難された方に「飼い主の会(仮称)」を立ち上げてもらい、とりまとめをお願いしましょう。避難所と情報共有しておくことで、発災直後の不要な混乱を少しでも避けることに繋がります。また、飼い主に情報提供しておくことで、飼い主に防災に対する心構えやペットのしつけ等を意識してもらうことにも繋がります。

基本ルールの例

避難所全体のルール

- ・避難所運営本部の指示に従うこと
- ・ペットは飼い主が責任を持って世話をすること
- ・ペットは指定された場所で飼育し、居室に入れないこと



飼育スペースのルール

- ・建物の壁や床を汚さないように気をつけること
- ・エサの時間を決めておき、終わったら片づけること
- ・夜間はペットとのふれあいを控えること
- ・定期的に清掃を行い、ニオイの発生防止に努めること
- ・犬の散歩で発生したウンチは確実に片付けること



☆詳細なルールはどうすれば？

大規模災害など避難が長期化した場合、避難者によって生活のパターン(例:避難所から仕事に向かう方、避難所に留まる方など)が変わってきます。その中で一律に詳細なルールが決められていると、飼い主によっては対応できない場合がでてきます。

ペットの管理は飼い主の責任(**自助**)ですが、飼い主同士で共に助け合う流れ(**互助**)ができれば、飼い主個人や避難所運営者の負担軽減にもつながります。例えば、避難生活を共にする飼い主同士で「**飼い主の会**(仮称)」を立ち上げてもらい、避難所の実情に合わせた詳細なルール作りを促すとよいでしょう。

避難所の **詳細** ルールの一例

【給餌、ふれあい】

- ・時間の指定・場所の指定・被毛などゴミの廃棄場所、廃棄方法
※早朝や夜間は望ましくない

【犬の散歩】

- ・時間の指定・場所の指定・他の居住者の動線と交わらないコースを指定

【排泄場所】

- ・屋外の場所を指定・回収した排せつ物の捨て場所と捨て方

【清掃】

- ・お散歩コース・排せつ場所
- ・ペット飼育スペースは、担当や方法を決めて定期的に清掃



【フードの保管場所】

- ・個別に保管・全体で一括

【退去時の清掃】

- ・飼い主が協力して元の状態に戻し、きちんと清掃し消毒する

【鳴き声の対策】

- ・吠える犬には段ボールなどで目隠しする
- ・係留場所、ケージの場所を工夫する(なるべく動物への刺激が少ない場所)

【ニオイの対策】

- ・餌は食べ残したらすぐ片付ける・餌の袋の口はきちんと閉じる
- ・排泄物は必ずビニール袋を二重にして、しっかりと縛って捨てる

【毛の対策】

- ・ブラシをかけて良い場所を指定する
- ・居室に入る前に粘着ローラーやガムテープで衣服についた毛を取る

4 飼い主・住民への周知啓発

ペットを受け入れる避難所が選定できたら、これを住民に周知しておきましょう。飼い主が平時に避難所情報を入手できるようにしておけば、発災直後の不要な混乱を避けることに繋がります。併せて、避難所でのペット飼育管理の基本ルールや平時の備えなども周知しておきましょう。

ペットの防災は **自助** がとても重要です。事前に情報を周知し、飼い主に準備を促しておくことが大切です。

【参考】

台風第19号におけるペット動物の対応等について(令和元年11月・埼玉県調査)

★避難所のペットに係る相談苦情等は寄せられましたか？

苦情相談の内容	回答自治体
避難所にペットを連れて行って良いか？	34
同行避難についてホームページ以外でも周知してほしい	3
ペットが人と同じスペースに居られないことへの不満	3
同行避難するためにどんな準備が必要か 避難所ごとにケージ等を備蓄してほしい 屋内のスペースを確保してほしい ペットがいるから避難できない 建物内にペットを持ち込んでいる人がいた 同行避難できずに何かあつたら責任とれるのか	各1
なし	15

Point!

政令市・中核市を除く、複数回答あり

上記埼玉県内でのアンケート調査結果から、台風第19号(令和元年東日本台風)では多くの自治体にペット同行避難に関する相談が寄せられていたことがわかりました。つまり、それだけ飼い主が不安に感じていた状況が伺えます。

ペットの防災は自助が重要であり、飼い主が事前に情報を収集して避難に備えてもらうことが理想です。しかし、大きな災害直後は防災への関心も高まりますが、時間の経過によりどうしても危機感が薄れてしまいます。

全ての住民が速やかに避難できるようにするために、**日頃からの情報発信**が重要と言えます。

平時からの普及啓発

繰り返しになりますが、ペット防災は **自助** が重要です。平時から積極的にペットの飼い主に災害対策を呼びかけましょう。災害時の混乱を減らすことができるだけでなく、避難所の運営にも協力してもらえるようになります。

飼い主が行う防災対策の例

1 住まいや飼育場所の防災対策

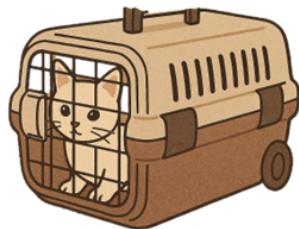
災害でペットを守ることができるのは飼い主だけです。自分が無事でなければペットは守れません。

- 家具やケージの固定、転倒防止、落下防止
- ケージなどペットの避難場所(隠れ場所)の確保

2 ペットのしつけと健康管理

避難所へのペット同行避難とその後の生活を考えると、ケージでおとなしくできるしつけと、避難所での集団生活を見越した健康管理が必要です。

- ケージに入ることを嫌がらないよう、日頃から慣らしておく
- 不必要に吠えない、他の動物を怖がらないよう慣らしておく
- ノミ・ダニなどの予防をしておく
- 不妊去勢手術をしておくなど



3 行方不明にならないための対策

- 首輪と迷子札やマイクロチップを装着しておく

4 ペット用の避難用品や備蓄品の確保

同行避難できても、ペット用の支援物資が届くには時間がかかります。特に、動物の命や健康にかかわるものは、自分で持参しましょう。

- 療法食、医薬品
- キャリーバックやケージ
- ペットフード、トイレ用品 など

◎ 新聞紙、ガムテープ、バスタオル、ブルーシートは様々な使い道があり、何かと役立ちます。



5 情報収集と避難訓練

お住まいの地域のハザードマップにより危険箇所を確認しましょう。

また、災害を想定して避難訓練をしてみましょう。

5 ペット同行避難訓練

避難所のペット飼育スペースが選定できましたら、ぜひペットの同行避難訓練を実施してください。

まずは、飼い主がペットとともに避難する**疑似体験**から始めてはいかがでしょうか。これにより同行避難の周知にもつながります。さらに翌年は、同行避難者の受付設置や飼育スペースでの管理体験など、実際の避難を想定した訓練に移行していきます。

たとえ準備不足であっても、やってみないと課題は見えないものです。ペットを伴った避難訓練をする際には、県動物愛護センターもアドバイスをいたしますので、お気軽にご相談ください。

ペット同行避難 **訓練** の一例

キャリーバックに入れて避難してきました。

指示書に従って案内図や飼養場所の準備をします。

スタートーキット

避難所にあるスタートーキットを使いペット避難所を立ち上げます。

受付の実施 猫部屋の準備

犬部屋の準備

飼養管理など、ペット避難所を飼い主が自主運営します。

災害時の対応(避難所運営編)

ペットの入所受付

避難所では、避難者の状況等を把握するため「受付」を行います。ペットを受け入れる避難所では、同行避難者用の受付窓口を設置することで、不要な混乱を避ける一助となります。

★受付内容

飼い主とペットの情報を入手して名簿を作成します。この際、ケージ用の札を渡してケージなどに装着してもらうと管理する上で役立ちます。なお、飼い主がペットの写真を持参してあれば名簿に付けておくとよいでしょう。

入手情報の一例

- ・飼育者の氏名及び緊急連絡先(避難所内の居場所等)
- ・動物の種類と特徴(性別、不妊去勢の有無、毛色など)
- ・狂犬病予防注射接種の有無、混合ワクチン接種の有無
- ・病気の有無、かかりつけ動物病院など

動物情報			No._____
動物種別: 犬 毛色: ブラック			
飼い主名: 鳩井 太郎			
飼い主職業: 家庭主婦			
飼い主連絡電話番号: 090-0123-4567			
名前	わんこ	年齢	歳
性別	オス	メス	<input checked="" type="checkbox"/> 不妊去勢済
体重	4.5 kg	性別	ふくい動物病院
混合ワクチン	<input checked="" type="radio"/> 未	狂犬病	<input checked="" type="radio"/> 未
		フィラリア	<input checked="" type="radio"/> 未
注意事項等:			

★基本ルール順守の説明

受付では「飼育管理の基本ルール」を周知します。ただし、受付は非常に混乱するため説明が難しいかもしれません。あらかじめチラシを準備し、受付時に配布することをお勧めします。

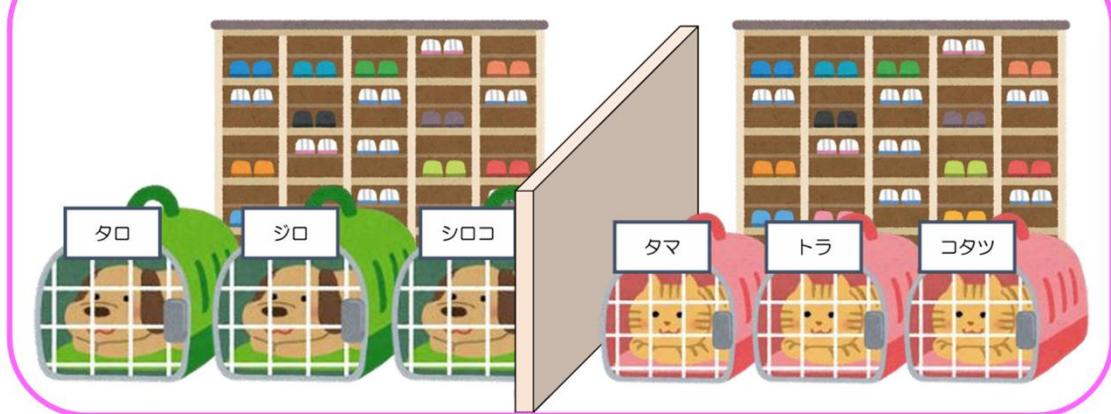
★ペット飼育スペースへの移動

受付後、飼い主とペットを飼育スペースに誘導します。(併せて一般受付が必要な場合は、飼い主だけを誘導します。)

Point!

盲導犬など身体障がい者補助犬は**居室への同伴が必要**となりますので、あらかじめ避難所に障害に応じたスペースを確保しておく必要があります。

一時スペース(例) 下駄箱の土足部分を利用



【参考】

ペットの一時飼育スペースの例

【ペット同行避難訓練写真:埼玉県提供】



1 学校の下駄箱を一時飼育スペースとした例



2 浸水を想定して、学校の非常階段踊り場を一時飼育スペースとした例

「スターターキット」という取組み

災害が発生した場合、また未然に災害発生が想定される場合、各自治体では速やかに避難所が開設されます。しかし、開設直後の避難所には担当職員や避難所運営者がすぐに来られるとは限りません。そこで、避難所に最初に到着された方が速やかに受入れ体制を整えられるよう、

初動の指示書(ミッションカード)と物資をとりまとめた「スターターキット」を避難所に備えておく取組みが注目されています。

ここでは、ペットを連れた避難者向けのスターターキットを紹介します。



特徴

【資料提供:NPO 法人アナイス】

スターターキットは ①指示書、②物資、③関係書類に大別され、これらをプラスチックケースにまとめて入れて避難所に保管しておきます。

1 指示書(ミッションカード)



- ・指示書1枚が1つのミッションとなります。
- ・イラストを使って誰が読んでも理解できる指示を記載しておきます。
- ・ミッションを1つずつクリアすることで飼い主でも準備が進められるようになっています。

2 物資



- ・ミッションを進めるために必要な物資を入れておきます。
(例)ブルーシート、養生テープ、軍手、カッター、筆記用具、ごみ袋 など
- ・多くは100円ショップ等で入手可能なものです。
(21ページ参照)

3 関係書類

避難動物管理台帳						
避難動物管理台帳						
No.	入用	退用	飼い主名	ペット名	品種	性別
登録番号 3/1	3/15	避難本部	こたろう	トイプードル	♂ [♀] 2 未社去勢	避難所内飼い主登録 登録番号 1番 2-3
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

・ペット専用の受付名簿、飼い主向け配布物、各種掲示物、関係機関の連絡先、ケージに貼るネームプレート、運営本部のルールなどを入れておきます。

ある避難所の指示書(ミッションカード)の一覧

No	ミッションの内容
1	同行したペットの仮置き場を設置しましょう。
2	避難所入り口にペットの仮置き場への案内表示を張りましょう。
3	犬の飼育スペースを設置しましょう。
4	猫の飼育スペースを設置しましょう。
5	同行避難ペットの受付を設置しましょう。
6	ペットの受け入れを開始しましょう。
7	避難してきたペットに迷子札をつけましょう。
8	ペット関連掲示板を設置しましょう。
9	ペットの排泄物の廃棄方法とは遺棄場所を決め、案内しましょう。
10	ペットに関する注意書きのポスターを掲示しましょう。
11	飼い主を集めてルールを確認しましょう。

指示書の例

ミッションカード No.1

ペット同行避難者どうし、声をかけ、協力して作業を進めてください。
同行したペットを仮に置く場所を決め、作業の間、管理する役割の人に居てもらうか
ペットのそばにこのカードを掲示しておきます。

※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。

ミッションカード No.4

猫の飼育スペースを設置します。
避難所担当者に了解を得たうえで、東校舎突き当たりの階段下にブルーシートを敷き、猫の飼育スペース

とします。

付近に準備してある
※作業が終わったら、このミッション
「ミッション終了」と書いてあるビニ
ミッションカードNo.は飛んでも構
未終了の場合は、「未終了」と書
ミッションを継続します。

ミッションカード No.5

ペット飼育受付を設置します。
使用できる机(1台)や椅子(2脚)を借りてきて
ペットの仮置き場のそばに配置し、
必要資材を並べ、掲示物を貼ります。

※作業が終わったら、このミッションカードは、
「ミッション終了」と書いてあるビニール袋に入れて、次のミッションに進みます。
ミッションカードNo.は飛んでも構いません。
未終了の場合は、「未終了」と書いてあるビニール袋に入れて、
ミッションを継続します。

— スターターキットの内容 —

避難所に到着した飼い主様へ

このスターターキットをあけた方は、
上から順番にカードの指示に従ってください。
ペットの受け入れ準備が開始されます。

ペット飼育スペースをいち早く設置することで、
避難所内の混乱を防ぐことができます。

他の飼い主にも声をかけ、みんなで協力していきましょう。

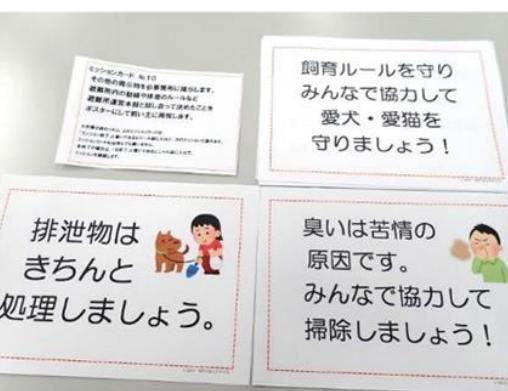
ミッションカード No.1
ペット同行避難者どうし、声をかけ、協力して
作業を進めてください。
同じく避難所でペットを預かる場所を決め、
作業の際、責任する避難所の人に任すからうが
ペットのさばにこのカードを提示しておきます。

ペット飼育スペースの
設置作業中です。
暫定的にこの場所にペットを
置いていますが、
準備が整い次第、移動させます。

緊急連絡番号 _____



ペット同行避難 受付はこちら



1 ペットは決められた場所でネームプレートを着けたケージなどに入れるか、放れないよう
にリードにつないで飼ってください。
また、人の居室には絶対に入れないでください。

2 ペットには、飼い主の氏名と連絡先を書いた迷子札など、身元が分かるものを着けて
ください。
また、ムダ吠えを防ぐためケージを段ボールや毛布等で覆ってください。

ペット飼育スペース

事故防止のため
飼い主以外は無断立ち入り禁止

ご用の方は_____まで。

などが寄ってこな

にしてください。ま

8 ペットが原因となる苦情や危
他の避難者との間でトラブル
ださい。

9 ペットの飼い主向けの掲示板

10 退所時は使った場所をわ



【資料提供:NPO法人アナイス】

スタートーキット内の物資の一例

	品名	サイズ等	使い方など
	プラスチックケース		以下の物資を保管するケース
1	ビニールシート (ブルーシート)	大	ペット飼育スペース養生用
2		中	(風雨避け、視線コントロールなど)
3		小	ケージカバー用
4	遮光ネット		日よけ
5	ビニールテープ		応急係留、立ち入り制限、シート掛けなど
6	ガムテープ		ネーム、掲示物など
7	養生テープ		ネーム、掲示物など
8	両面テープ		ケージ、シート補強など
9	セロテープ(OPPテープ)		
10	筆記用具	ボールペン	黒
11			赤
12		マジックペン	黒
13			赤
14		ネームペン	黒
15			赤
16	ステープラ(ホチキス)	本体	
17		針	受付用文具など
18	ダブルクリップ		
19	クリアホルダー		
20	クリップボード		
21	ハサミ		
22	カッター	大	
23		小	
24	白紙用紙		
25	洗濯バサミ		ケージカバー留めなど
26	プラスチック容器	大	
27		中	応急食器など
28		小	
29	紙容器	深型	応急食器(誤食対応のため紙製)
30		浅型	
31	スプーン		伍詰が支給された場合
32	アルミホイル		食品保管用
33	ビニールラップ		食品保管用
34	ビニール袋	大	ごみ処理、寒さ対策など
35		小	排泄物処理など
36		チャック式	フードの支給など
37	手袋	使い捨て用	清掃
38		ゴム製	洗浄
39		革製	咬傷事故防止
40	バケツ		清掃
41	ホウキ		清掃
42	チリトリ		清掃
43	塩素系漂白剤		消毒(排泄物除去後、ケージなど)
44	霧吹き口	ペットボトル用	消毒
45	雑巾		清掃
46	タオル		清掃
47	粘着ローラー	本体	居住区対応
48		替えテープ	
49	ペーパータオル		清掃

【資料提供:NPO法人アナイス】

参考様式

環境省が作成した「人とペットの災害対策ガイドライン」にも、この他にも様々な様式を掲載しておりますので御活用ください。

個別の調査票、ペットのネームプレート(ケージなどに貼る)

記入例

〈避難所用動物調査票〉 No. 1

飼い主氏名: 福井 太郎

飼い主居室: 1階 101研修室

携帯電話: 090-▼○□△-◇○▲■

動物名・種類	犬 トイプードル			
名前	わんこ	年齢	2歳	
性別	オス・メス <input checked="" type="radio"/> 不妊去勢済	体重	4.5kg	
病気	<input checked="" type="radio"/> 無 有()	かかりつけ動物病院		動物病院
混合ワクチン	<input checked="" type="radio"/> 済 未 予防	<input checked="" type="radio"/> 済 未	狂犬病接種 <input checked="" type="radio"/> 済 (6月)・未	
性格	<input checked="" type="radio"/> 人なっっこい おとなしい 咬む <input checked="" type="radio"/> 営える			
家庭における飼育環境	屋外 室内	ケージ	出入り自由	
必要とする物	ケージ フード その他()			

ネームプレート No. 1

名前・動物名・種類 わんこ 犬 トイプードル

毛色・特徴 クリーム 赤色首輪

年齢・性別 2歳 オス メス 不妊去勢済

飼い主氏名 福井 太郎(ふくい たろう)

飼い主居室 1階101研修室

緊急連絡先 090-▼○□△-◇○▲■

性格・注意事項 興奮すると吠える続けるので、できるだけそつとしておいてください。

〈避難所用動物調査票〉 No.....

飼い主氏名: _____

飼い主居室: _____

携 帯 電 話: _____

動物名・種類			
名前		年齢	歳
性別	オス・メス 不妊去勢済	体重	kg
病気		かかりつけ動物病院	動物病院
混合ワクチン		狂犬病接種	済(月)・未
性格	人なつっこい・おとなしい・咬む・吠える		
家庭における飼育環境	屋外・室内・ケージ・出入り自由 ・その他()		
必要とする物	ケージ・フード・その他()		

ネームプレート No.....

名前・動物名・種類.....

毛色・特徴.....

年齢・性別..... 歳..... オス メス 不妊去勢済

飼い主氏名.....

飼い主居室.....

緊急連絡先.....

性格・注意事項.....

避難動物管理台帳

ペット飼育スペースに動物を入室・退室させる際には、必ずご記入ください。

避難所名：

No.	入所 記入例	退所 3/15	飼い主名 福井太郎	ペット名 わんこ	品種 トイプードル	性別 ♂・♀ 不妊去勢	毛色・特徴 白、青首輪	避難所内飼い主居室 東校舎 1 階 2-3	備考
1						♂・♀ 不妊去勢			
2						♂・♀ 不妊去勢			
3						♂・♀ 不妊去勢			
4						♂・♀ 不妊去勢			
5						♂・♀ 不妊去勢			
6						♂・♀ 不妊去勢			
7						♂・♀ 不妊去勢			
8						♂・♀ 不妊去勢			
9						♂・♀ 不妊去勢			
10						♂・♀ 不妊去勢			

避難所でのペット飼育管理ルール

- ◆ 避難所での暮らしは、限られたスペースでの共同生活であり、ペットの飼い主と飼育していない人のお互いの理解が必要です。
- ◆ 動物が苦手な人やアレルギーを持っている人のことを配慮し、人と動物が少しでも気持ちよく過ごせるように次のことを守ってください。

- 1 ペットは決められた場所でネームプレート着けたケージなどに入れるか、放れないようにリードにつないで飼ってください。
また、人の居室には絶対に入れないでください。
- 2 ペットには、飼い主の氏名と連絡先を書いた迷子札など、身元が分かるものを着けてください。
また、ムダ吠えを防ぐためケージを段ボールや毛布等で覆ってください。
- 3 ペットの管理は、飼い主が責任をもって行ってください。
 - ・餌やり、水やり
 - ・ペットの手入れ(体を清潔に)
 - ・散歩
 - ・ケージや飼育場所周辺の清掃
 - ・ウン尿の後始末
 - など
- 4 餌や水を与えた際はその都度きれいに片づけ、ニオイが残ったり、虫などが寄ってこないよう気を付けてください。
- 5 排泄は屋外の決められた場所でさせ、必ず後始末を行ってください。
運動やブラッシングも屋外の決められた場所で行ってください。
- 6 散歩のときは必ずリードをつけ、周囲の方の迷惑にならないよう配慮してください。また、オシッコは、ペットボトルで水を持参し流してください。
- 7 ゴミは専用のごみ箱に分別して廃棄し、ゴミ出しは飼い主さんが行ってください。粪はビニール袋に入れ、ニオイが漏れないようしっかりと縛ってください。
- 8 ペットが原因となる苦情や危害が発生しないように努めてください。
他の避難者との間でトラブルが生じた場合は、速やかに避難所設置責任者に連絡してください。
- 9 ペットの飼い主向けの掲示板を毎日確認してください。
- 10 退所時は使った場所をきれいに清掃・消毒し、届け出してください。

ペットの災害対策に関する問合せ先

ペット同行避難に関する相談も含め、災害発生時の飼い主やペットのサポートは下記の機関が行います。

機関名	電話
福井県医薬食品・衛生課	0776-20-0354
福井県動物愛護センター	0776-38-2212
(公社)福井県獣医師会	0776-28-1244

【参考】ペット災害同行避難に関する法的な根拠

災害基本対策法に基づく国の「防災基本計画」

- ・「飼い主による家庭動物との同行避難や指定避難所等での飼養についての準備」
- ・指定緊急避難場所や避難所に家庭動物と同行避難した被災者について、適切に受け入れる
- ・避難所等における家庭動物の受入状況を含む避難状況等の把握に努めるものとする
- ・指定避難所における家庭動物のための避難スペースの確保等に努める
- ・家庭動物の飼養に関する資材の調達確保
- ・必要に応じて、仮設住宅における家庭動物の受け入れに配慮する

動物の愛護及び管理に関する法律に基づく都道府県の「動物愛護管理推進計画」

- ・災害時における動物の適正飼養及び保管を図る施策について定めること

メモ

本マニュアルに関する**問合せ**先

福井県健康福祉部健康医療局 医薬食品・衛生課食品安全グループ

電話 0776-20-0354

福井県動物愛護センター

電話 0776-38-2212

市町・避難所運営者のための

ペット同行避難所運営マニュアル

令和7年11月発行